

## 外部団体と連携した防災教育プロジェクト

### 特別支援学校 放課後子供教室で「親子の防災体験プログラム」

特別支援学校の放課後子供教室で、親子で防災について体験できるプログラムを実施しました。  
ここでは、体験コーナーの内容を中心に、紹介します。

#### ■協力団体

NPO法人プラス・アーツ / NPO法人コドモ・ワカモノまちing

#### ■内容

3つの体験コーナーを用意し、参加する親子を3グループに分けて、順番に体験しました。  
各コーナーでは、20分の体験後にスタンプカードにスタンプを押します。3つ集めると、最後に非常食などのお土産をもらえる、という流れで実施しました。

10:00~10:10	はじまりの会	今日の内容を紹介 指導者・スタッフ紹介
	会場へ移動	
10:20~10:40	体験第1回	
	次の会場に移動	
10:50~11:10	体験第2回	
	次の会場に移動	
11:20~11:40	体験第3回	
	終わりの会の会場に移動	
11:50~12:00	終わりの会	まとめ

#### ■体験コーナー ★は体験コーナー進行例をダウンロードできます

##### ○新聞紙で紙食器づくり ★

コップはビニール袋をかけて麦茶を飲み、お皿は乾パン等を食べてみる。

(アレルギー対策のため、乾パン等の原材料名を大きくコピーして掲示)

##### ○水消火器の的当てゲーム

水消火器を使って、的を倒れるまで水をかける。

NPO法人プラス・アーツのキットを使用



##### ○応急手当体験 ★

子供が腕を怪我した想定で、保護者が雑誌を使った添え木、バンダナを使った止血法等を体験

##### ○毛布担架でタイムトライアル

毛布を使って、カエル人形を協力して運ぶ。教室内に往復するコースをつくり、グループごとの往復時間を計り、終わりの会で発表する。

##### ○防災絵本と「ぼうさいダック」

防災絵本「ガタガタ村と大ナマス」 東日本大震災の後に大田区の自治会が作成。関西大学の河田恵昭教授とNPO法人プラス・アーツ理事長の永田宏和氏が監修した絵本の読み聞かせ。

「ぼうさいダック」は、日本損害保険協会が作成したカードゲームで、「地震の時はダックのポーズ（頭を両手で隠すポーズ）」など、大きなカードを見ながら一緒にポーズをとる。

（「ぼうさいダック」は、HPの「教材」のコーナーで紹介）

#### ○ジャッキアップゲーム

倒壊した建物内に閉じ込められた人や、転倒した家具の下敷きになってしまった人を助け出すために有効な方法として紹介し、参加者が交替して体験。NPO法人プラス・アーツのキット（板の下に置くカエル人形と、板の上に置くナマス人形）を利用。入手しやすい自動車に搭載されているジャッキを使う。大人もジャッキの使い方を知っておく機会にもなる。

#### ○非常持ち出し袋を考えよう

ゲームのカードを拡大し、ホワイトボードに貼る。家族ごとに、非常持ち出し袋に入れる9つのものを選び出し、発表する。「サポートブック」（子供の特性や接し方について保護者が記入し、ボランティア等が子供の支援に役立てるためのノート）や、「耳栓」「マウスウォッシュ」など、事前に保護者の話合いで提案されたカードも追加作成して使用。



（「非常持ち出し袋を考えよう」ゲームは、HPの「教材」のコーナーで紹介）

#### ○災害用トイレを知る

写真で避難所等の災害用トイレについて紹介。大きなビニール袋に、新聞紙を破って入れる簡易トイレを作ってみる。いくつかの簡易トイレの実物を展示し、実際に水を入れて使用法を伝える。他に消臭剤、消毒シートなど、快適に使用し、衛生を保つために備えておく物も紹介する。

#### ○バケツリレー ★

1回目は普通にバケツリレーを行い、2回目は、身近にあるもの（ゴミ箱、ビニール袋、料理用ボール等）の中からグループで1つ選んで実施。

#### ○パーティーションづくり ★

避難所のパーティーションに見立てた大きいパネルに、好きな絵を書いたり、シールを貼ったりする作業をみんなで行う。地震後の生活で、子供にとって楽しいこと、落ち着くことを工夫して行う大切さを知る。



#### 支援団体情報（URL 等）

NPO法人プラス・アーツ <http://www.plus-arts.net/>

NPO法人コドモ・ワカモノまち [ing http://www.k-w-m.jp/](http://www.k-w-m.jp/)